空中から見る地域の再発見
(Rediscovery of Local Area from the Air)

ビジネス企画学科　曽我部雄樹
SOGABE, Yuki

1. 若者から見える岐阜のイメージ

私が岐阜に来たのは 1995 年である。大学進学のために 18 歳で岐阜に来て以来、21 年間を瑞穂市で過ごしてきた。当時、どこのコンビニに行っても駐車場があることに驚いた。進学前に免許を取得し、車で色々な場所に行った。しかし、20 歳台前後の大学生が出かける場所といえば遊ぶところばかりで、観光地ではなかった。そのためにどこに行ったのかは記憶に残っていない。その後大学を卒業し、大学院で学び、母校で教員になった。教え子が後輩というのはとても特別で、特に県外から岐阜に来た学生には親近感があった。彼らとの共通の話題は岐阜県であった。しかし、彼らから岐阜の特産などの話題を求められても答えられなかった。私自身が柿や鵜飼いなどの岐阜の特産や風習を知ったのは就職してからしばらく経ってからである。

2. 技術の進化

瑞穂市に住んで 21 年経ち、街の風景も変わった。同じ場所でも店舗が数回変わり、なじみの店も無くなった。その間に結婚し、子供が生まれた。私の故郷は岐阜県ではないが、子供たちの故郷は岐阜県になる。子供たちのためにも岐阜県を知る必要があると感じたのが 2014 年だった。

今までは高価であったり知られていなかったために限られた人たちが使用していた技術が、あるきっかけを機会に一気に普及することがある。または、そのような技術が悪用されたために報道され、法規制まで行われてしまうことがある。私にとって初めてのそのような経験がインターネットであった。1995 年に Windows95 が発売され、インターネットが身近になった。それまでは限られた人たちによるアンダーグラウンドな世界であったインターネットが、多くの人たちが使うオープンなネットワークとして普及していった。多様な人たちが使うことによって多くの問題が発生し、若者世代を中心に被害が大きくなっていった。違法コピー・出会い系・詐欺等が横行し、現在でも便利なインターネットの暗部として存在している。3D プリンタやドローンも同様である。新しい技術として世間に出たものの、多くの人が知ったのは銃の密造であったり首相官邸への着陸事件等である。しかしこれらの技術は適正に活用することで有益な結果を導くことができる。インターネットの普及によって新しい商慣習が生まれ、情報を発信する個人・地域が爆発的に増えた。その結果、株式会社いろどりの葉っぱビジネスのような、過疎地でも十分にビジネスを展開できることを示した。インターネットは地域が生き残るための技術として有用であると多くの人が認めることになった。3D プリンタも同様である。多くの人が 3D プリンタを知ったのはショッキングな動画であった。その動画では 3D プリンタで作成された銃で実弾が発射できた。しかし、即座に規制されることはなく、その

後も新しい製品が多く生まれた。その結果モノづくりの世界を広くした。安価な 3D プリンタから様々な製品を生み出し、また教育にも使われている。

3. ドローン

ドローンの登場によりラジコン模型飛行機が一部の人の趣味であった時代が終わった。それまでは軍や一部の企業・研究機関に限られていたドローンは、スマートフォンを初めとする各種のセンサーの小型化・低価格化されたデバイスによって普及し、一般人が入手しやすくなった。そして 2015 年はドローンを用いた事件が多発し、一気に有名になった。また 2015 年 12 月 10 日からは法規制も始まった。この規制はドローンの成長を阻害させるのではなく、適正な利用を求めるものである。今こそドローンは適正に利用され、我々の利益につなげなくてはならない。

4. 情報の収集から発信まで

インターネットの普及により安価で手軽に地域の情報を発信する手段が確立された。しかし情報を収集する手段は従来から変わっておらず、また我々自身も新しい情報を持っていない。そのため、新しい視点をもって誰もが情報を収集し、発信する必要がある。スマートフォン等の携帯情報端末が普及し、手軽にリッチコンテンツが楽しめるようになり、情報の提供者と消費者がより近くなっている。これらの技術を活用し、岐阜県をより多方面から捉え、我々自身が地域を知ると同時に発信することで地域に利益をもたらすことができると考える。その利益は経済的に我々を支えるだけではなく、災害等が発生した際に我々の財産を守ることもできる。

これらの技術に興味のある人と是非一緒に研究を進めていきたい。それはいずれ地域に資する結果を出すことができるだろう。

朝日大学の北側を上空から。規制の施行前に撮影。